

レンジフード 取付説明書

電動ダンパー仕様で補足説明書が同梱されているもの、それに基づき電気工事をさせていただきます。

取扱説明書・取付説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上の注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
 - ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り付けをすることを想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- 警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。**
- 注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。**
- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。
- 絵表示の例**
- 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近例に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
 - 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

- 警告**
- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作しけがをするおそれがあります
 - 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
 - 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
 - アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください
- 注意**
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
 - レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
 - 交流 100V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります
 - 自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること
 - 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください
 - レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります

- 注意**
- 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること
金属の切り口や角でけがをするおそれがあります
 - 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）
感電および故障の原因になります
 - 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります
 - 運転中は指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります

取り付け上のお願

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。
 - ・大工工事【設置のための下地工事等】
 - ・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクタ利用以外の配線接続等】
 - ・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】
 流通業者（販売店）を通じて組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
 - ・ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
 - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの前面上のものをご使用ください。調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの適気抵抗は 400m²/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいちじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- レンジフード取付面は、取付用ねじが確実に届くことを確認してください。本体の取付用ねじは 45mm の長さのものと同梱されていますが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用ねじが確実に届くことを確認してください。
- また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材を使用してください。
- 製品は調理機器の真上に取り付けてください。なお、製品取付高さは、製品の下端が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。
- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取付けないでください。また、横方向 50cm 以上離して取り付けてください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。
- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けてください。火災・故障の原因になります。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 部屋の中央で料理される場合は油煙が溜まれませんので、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm² 程度の空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露し体内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。

取り付け前の調査と準備

警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作しけがをするおそれがあります
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります

注意

- 取り付けの際は必ず厚手の手袋をすること
金属の切り口や角でけがをするおそれがあります
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります
- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります

1 取付面の強度確認
製品を支える強さが必要です。

2 取付面の強度確認
製品重量 23.0 kg

3 別売部品の準備
排気工事に応じた別売部品の準備が事前必要です。

4 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上から製品の下端まで 80cm 以上です。
※ 火災予防条例では、グリッドフィルターの下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。

5 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）
コンセントは、JIS C 8303 2 極接地極付差込接続器 15A 125V をご使用ください。

必ずアース（D 種接地工事）をしてください。レンジフードが誤動作することがあります。

製品寸法図

(単位: mm)

標準取付例

だるま穴 (本体取付穴) 詳細

上部取付穴位置

だるま穴 (本体取付穴)

2-φ6穴 (本体取付穴)

2-φ8穴 (本体取付穴)

付属品

- 座付ねじ (φ5.1×45) (6本)
本体の取り付けに使用します。
- ソフトテープ (1本)
排気口とダクトとのすきまをふさぐのに使います。
- 排気口 (1個)
本体とダクトとの接続に使います。逆風防止シャッター付きです。取付ねじは本体に取り付けています。

各部のなまえ

天吊り金具、スイッチ、ファン、本体、仕切板、オイルバック、ランプカバー、整流板、電源プラグ、スロットフィルタ (グリッドフィルタ)

取り付けかた

1. 付属品の確認

注意

- 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること
金属の切り口や角でけがをするおそれがあります

付属品を確認します。梱包箱から付属品を取り出し、右上頂の付属品一覧により不足がないか確認します。

お願

- 取付作業の際は、キズ・破損のないように十分注意してください。
- 保護用のクッション材と固定テープは「5. 本体の取り付け」手順 6 までではずさないでください。（図 1-1）

2. 排気方向の決定

警告

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けのこと
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください

注意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります

1 製品寸法図を参照し、事前に工事業業者（法的有資格者）へ壁穴の開口を依頼してください。
また、コンセントの位置を確認してください。

2 φ150 のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを図のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットして、周囲を仕上げます。
(コンクリート、タイル、土壁の場合)

■ 上方排気の場合

■ 側方排気および後方排気の場合 (別売の L 形ダクトを使用する場合)

側方排気
左側方排気ダクト、右側方排気ダクト

後方排気
後方排気ダクト

3. 取り付け部品の準備

吊りボルトにフランジ付き六角ナットを取り付けます。（図 3-1）

吊りボルトの下のフランジ付き六角ナットの下側のフランジ付き六角ナットは、製品寸法図を参考にあらかじめセットしておくことで後作業が容易になります。

吊りボルト、フランジ付き六角ナットは取付作業側で手配します。

4. 排気用部品の準備

※ 「1. 付属品の確認」の項で取り出した排気口を用意してください。

■ 上方排気の場合 (図 4-1)
排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。本体についているねじ 2 本を取りはずした後、付属品の排気口を取り付けます。取付方向は右図を参照してください。

■ 側方および後方排気の場合 (図 4-2) (別売の L 形ダクトを使用する場合)
排気口に付属品のソフトテープを貼り、L 形ダクトに取り付けます。取付方向は、シャッターの開閉方向が下方になり、レンジフードを運転していないときはシャッターが閉じるように取り付けます。排気口は、L 形ダクトに付属している取付ねじ (M4×8) 4 本で L 形ダクトに取り付けてください。本体への取り付けは、本体の取り付け後におこないます。（「6. ダクトと排気用部品の接続」参照）

お願

- L 形ダクトを使用しないで、排気口に直接ダクトを接続して側方・後方排気する場合は、シャッターの開く向きに注意して排気口を取り付けてください。下図の「誤った接続例」の場合、排気不良や異常音の原因になります。

正しい接続例

誤った接続例

5. 本体の取り付け

注意

- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下により、けがをするおそれがあります
- 部屋の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります

1 だるま穴用座付ねじをねじ込みます。（図 5-1）
製品寸法図を参照し、だるま穴位置（左右各 1ヶ所に）に付属品の座付ねじ (φ5.1×45) を壁面とのすきま 5mm まで締め付けます。

2 本体を壁面に引っ掛けます。
本体を持ち上げて天吊り金具に吊りボルトを差し込みながら、ダクトに排気口を差し込み（図 5-2 ①）、手順 1 で壁面に取り付けた、だるま穴用座付ねじに吊り金具を引っ掛けます。（図 5-2 ②）

3 天吊り金具を挟み込むように上側のフランジ付き六角ナットをしっかりと締め付けて吊りボルトに固定します。（図 5-2 ③）

4 だるま穴用座付ねじをしっかりと締め付けます。（図 5-2 ④）

お願

- 本体の水平度を確認しながら固定してください。

5 だるま穴下の φ6 穴に座付ねじ (φ5.1×45) 2 本をしっかりと締め付けて固定します。（図 5-3）

6 排気口設置面の漏風確認のお願い（図 6-4）
排気口とダクトを接続する際、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面（製品天面等）が変形し、漏れが発生してしまう場合があります。漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。漏風する場合は、排気口と設置面の隙りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置をおこなってください。

6. ダクトと排気用部品の接続

6 整流板をはずします。（図 5-4）
保護用クッション材を一時的にはずします。
「9. 試運転」まで完了したら保護用クッション材を元の状態に取り付けてください。

1) 整流板の左右を両手で支え、少し押し上げます。
お願
整流板を落とさないよう両手でしっかりと支えてください。

2) 左右の突起を押し込みながらゆっくりと 10cm 程度おろした状態で、整流板を少し奥に押し上げながら上に持ち上げ、整流板用金具からはずして手前に取りはずします。

7 スロットフィルタをはずします。（図 5-5）
スロットフィルタのつとめを持ち、スロットフィルタを手で支えながら少し押し込み、手前や下側に引き出します。

8 仕切板をはずします。（図 5-6）
1) 2ヶ所の仕切板固定ねじをはずします。
2) 前側を完全におろした状態で後側を軽く押し上げ、後側面にあるツメ 2ヶ所をはずし、仕切板をはずします。
お願
・内部の配線を傷つたり、はさんだりしないでください。
・仕切板を変形させないよう、取り扱いは十分ご注意ください。

9 本体と壁面を固定します。（図 5-7）
座付ねじ (φ5.1×45) 2 本で本体の背面をしっかりと固定します。

10 仕切板を取り付けます。（図 5-8）
はずした時と逆の手順で取り付けてください。
※ 仕切板はサイドパネルの溝にしっかりと入れてください。
※ 完了後、オイルバックの固定テープをはがしてください。

6-1
ドリリングタッピングねじ (25mm 以下のねじを使用してください) を使用します。

6-2
ダクト、アルミテープ

6-3
取付ねじ、アルミテープ

6-4
ダクト、排気口、設置面、アルミテープ等

7. 電気配線

警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作しけがをするおそれがあります
- 交流 100V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

お願

- 電源は専用のコンセント（2 極接地極付差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを設けてください。
- コンセントは電源コードの長さをご考慮し、設置してください。
- 必ずアース（D 種接地工事）をしてください。

8. 試運転の準備

1 スロットフィルタを取り付けます。（図 8-1）
スロットフィルタを手で支えて後側を本体の板に押し当てながら持ち上げ、前側を本体の溝部分に差し込みます。

2 整流板を取り付けます。（図 8-2）
1) 整流板を取り付け部をフードの吊り金具に引っ掛けます。
2) 前側をゆっくり持ち上げてパチンと音がするまで押し込みます。
3) 整流板を軽く上下に動かしてみても確実に取り付けられたことを確認します。
お願
整流板の固定は確実におこなってください。ロックが不十分だと整流板の落下の原因になりますので、取り付け後、再確認してください。

9. 試運転

注意

- 運転中は指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります

● 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
● 運転時、各連調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
● 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
● 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。
● 取り付けまたは各種工事に発生した不具合が修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

10. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

【製造元】 -FUJIOH- 富士工業株式会社
本社・営業部 〒252-0206 相模原市中央区淵辺 2 丁目 1 番 9 号
TEL 042(768)3754 (営業部)